



河  
漢名所圖會  
下



阿波名所圖會卷之下

目錄

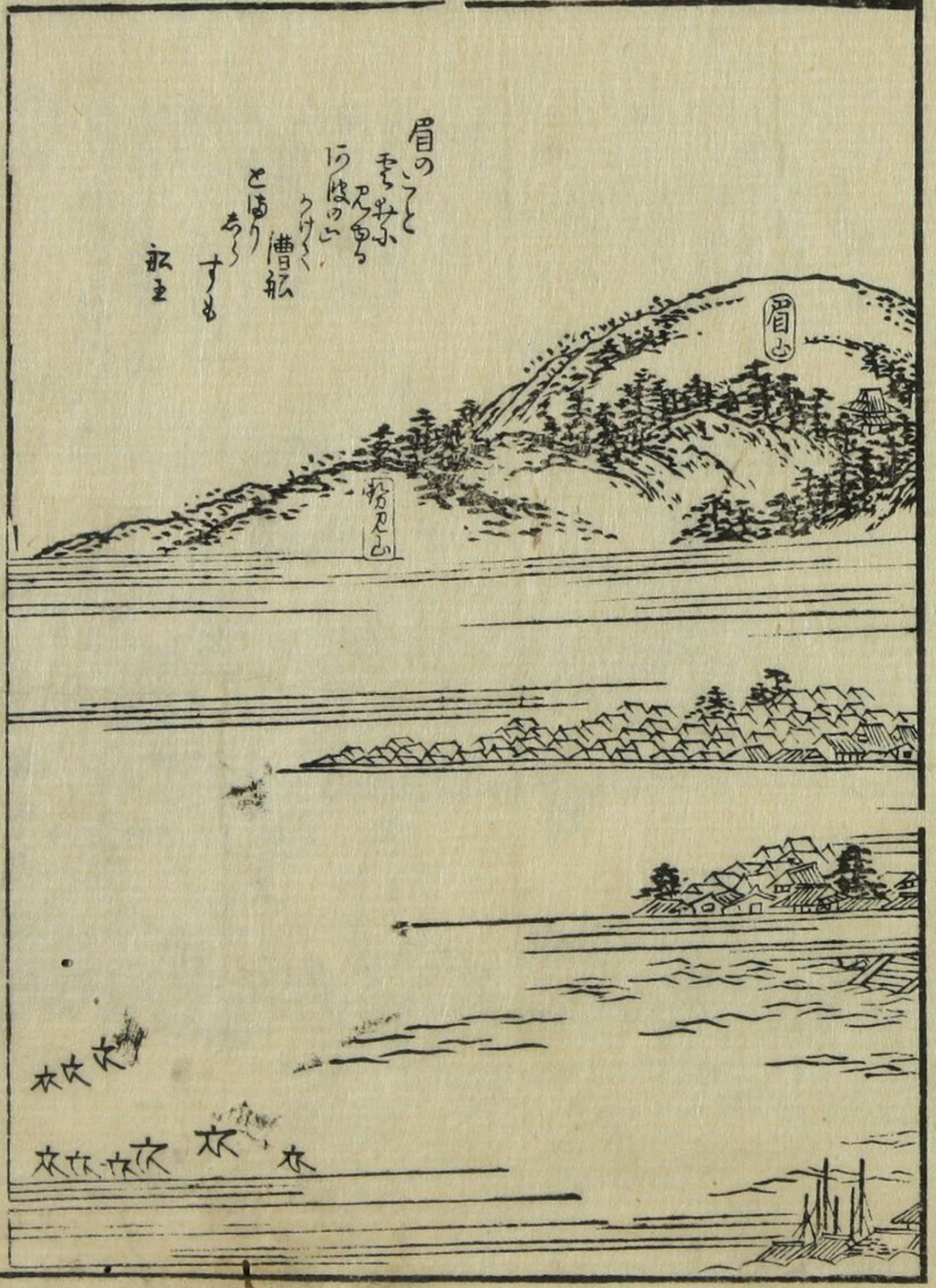
- |                                |                                  |                                  |                             |
|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| 骨山 <small>ひこさん</small>         | 岩刀山觀音 <small>いわとうざんくわんおん</small> | 同金毘羅神社 <small>どうきんぴらじんじゃ</small> | 芭蕉堂 <small>ばせうどう</small>    |
| 竹林院 <small>ちくりんえん</small>      | 北山梅 <small>きたやまうめ</small>        | 大六寺 <small>だいりくじ</small>         | 千代松原 <small>ちよひまつはら</small> |
| 小松多公浦 <small>こまつたかのみうら</small> | 天馬石 <small>てんまいし</small>         | 恩心寺 <small>おんしんじ</small>         | 立江寺 <small>たてえじ</small>     |
| 取星寺 <small>とりほしじ</small>       | 星谷 <small>ほしや</small>            | 權頂滝 <small>けんていたき</small>        | 徳林寺 <small>とくりんじ</small>    |
| 太龍寺 <small>たいりゆうじ</small>      | 石門 <small>いしもん</small>           | 明谷觀音 <small>あけやくわんおん</small>     | 濁淵 <small>じやくえん</small>     |
| 長谷山湊 <small>ながたにのみつ</small>    | 平等寺 <small>びやうどうじ</small>        | 佛所屋敷 <small>ぶつしよやしき</small>      | 鏡石 <small>きやうし</small>      |
| 系玉寺 <small>けいぎよじ</small>       | 玉厨子山 <small>たまづしやま</small>       | 八坂八溪 <small>やち坂はちせき</small>      | 鏡石 <small>きやうし</small>      |
| 母川螢 <small>ははがわのへび</small>     | 夷備 <small>ひらひ</small>            | 新浦觀音 <small>あらうら観音</small>       | 鏡石 <small>きやうし</small>      |
| 鈴峯 <small>すずかみ</small>         | 完食 <small>くわんじき</small>          | 新浦觀音 <small>あらうら観音</small>       | 七名石 <small>なななishi</small>  |
|                                | 完食 <small>くわんじき</small>          | 新浦觀音 <small>あらうら観音</small>       | 湊 <small>みつ</small>         |



眉山 極尊のあふ  
 何れ心形眉のあふ  
 一物山の大庵山ま  
 日の祐南岳山  
 観音金殿の社  
 中央獨坐庵八幡  
 文元三大師坐入  
 霊伴天社連徳と  
 一とさ



眉の  
 手  
 けは  
 漕  
 永

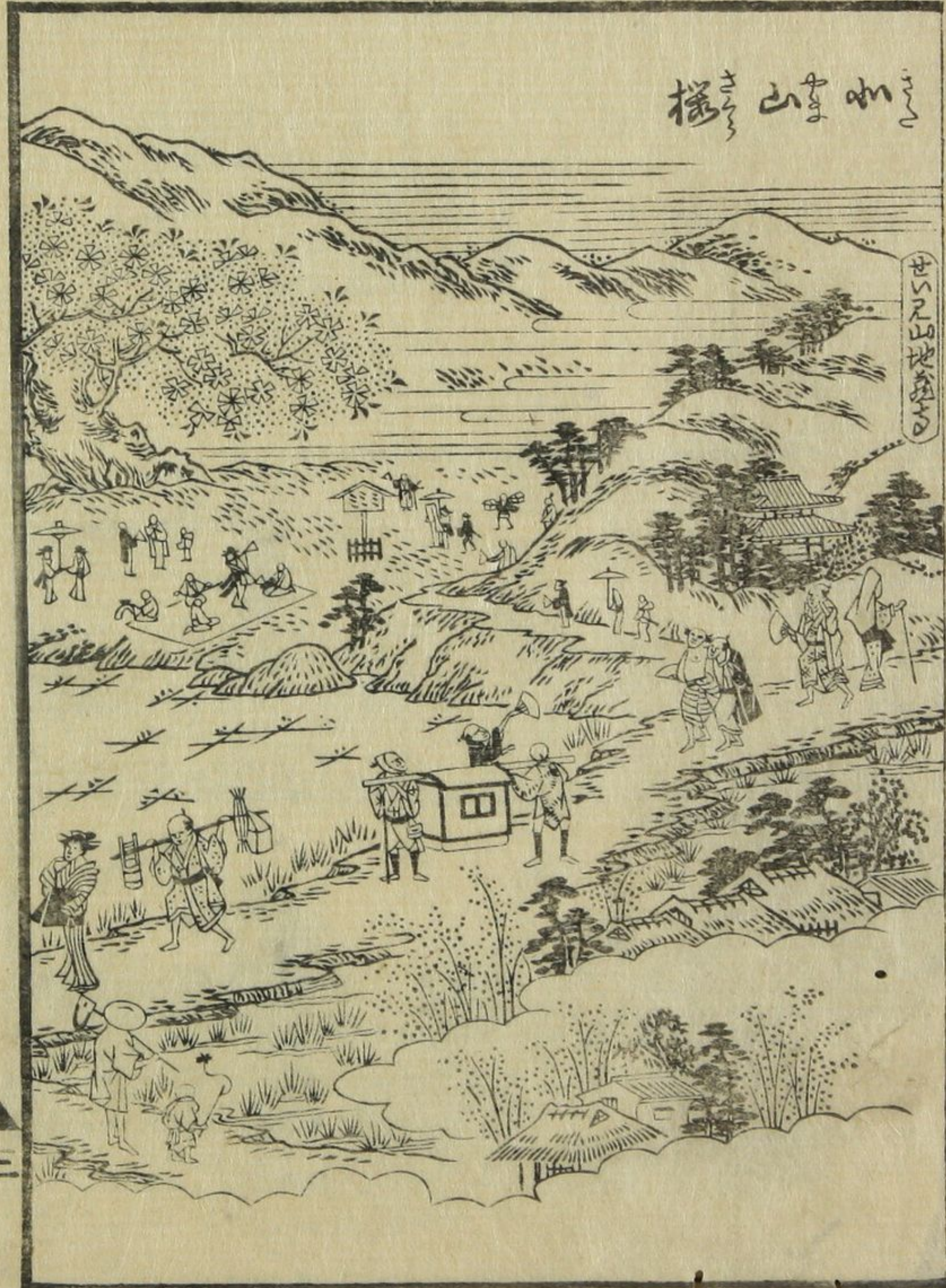


秋禪隨土俗  
調馬競城埴  
綵袖會風力  
紅塵蔽日光  
八蹄飛電閃  
雙旆斷虹颺  
喝采頌人海  
輪贏開一場  
浪花梅嶺

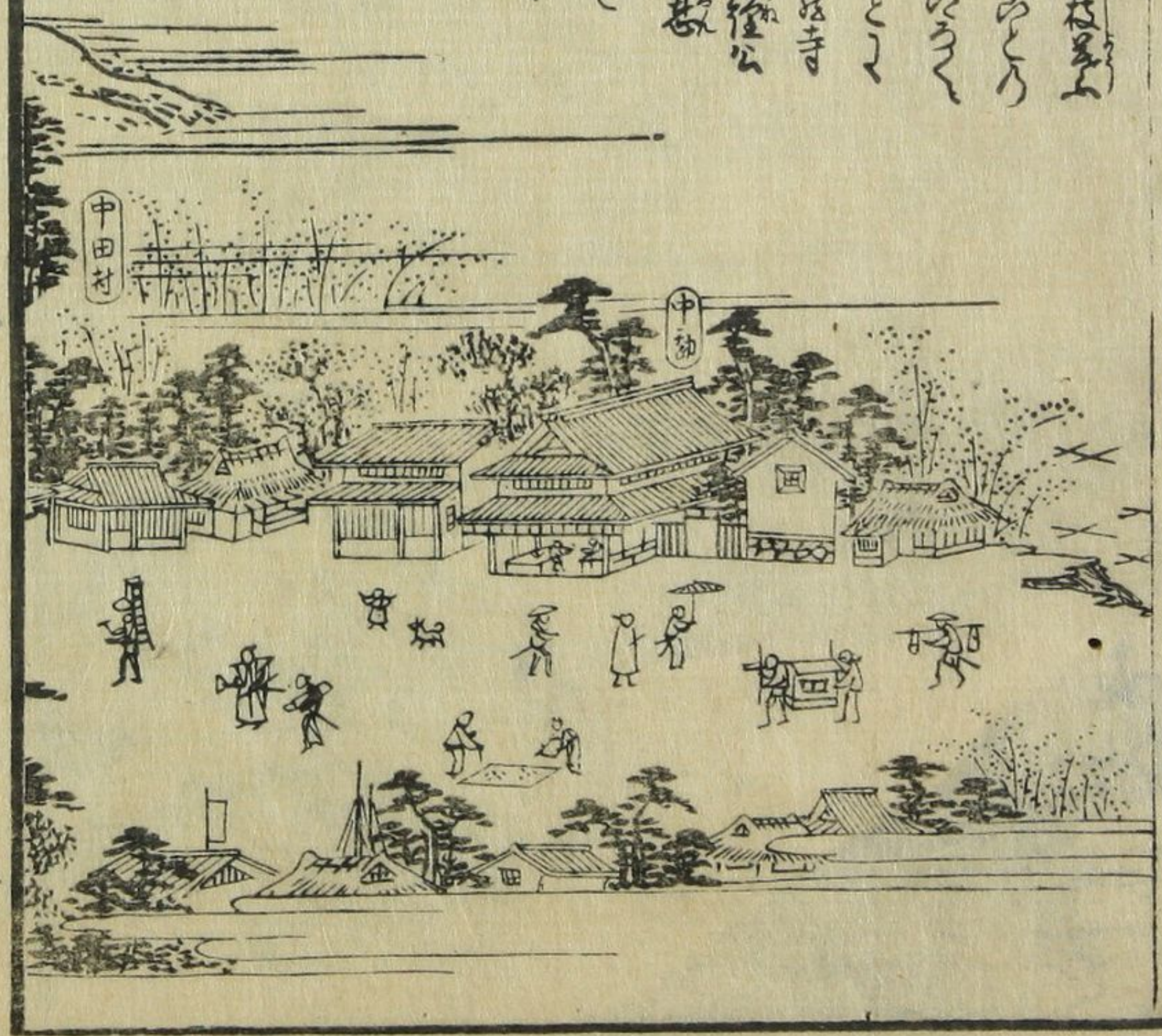


競馬  
大旗の神おなまを  
いつめを速くせよ  
白赤のまを早くて  
勝負をまろく  
む後すくまろく  
勝る船入白ま  
まを早くせよ





小山梅 侍浦之山小原のなまふ  
 官方小原く 継核する余年おとろ  
 まへる 梅の侍たたりあうく  
 花の色もふめく 侍日本のがくく  
 あそびくま 梅のとちり 徳光寺  
 山古の坊見山あり 源の三枝屋公  
 侍浦の鬼身音 証ありて 忠  
 寺 寺ありあひそくありいひて  
 阿とありつて 侍とく 江の川  
 へ 坊見いと名づけ 今まを  
 義経の約つてまを 阿の  
 公をとり 後まの 金屋  
 証なまありて  
 子代の木原  
 同如中田村より



中田村

名壁  
 本小  
 くれん  
 まるど  
 白ハギ  
 一ノ月  
 子代の  
 虫原  
 資枝口

了地  
 やうあ  
 子代の  
 木原  
 浪花  
 枯家



子代の木原

灌頂の滝



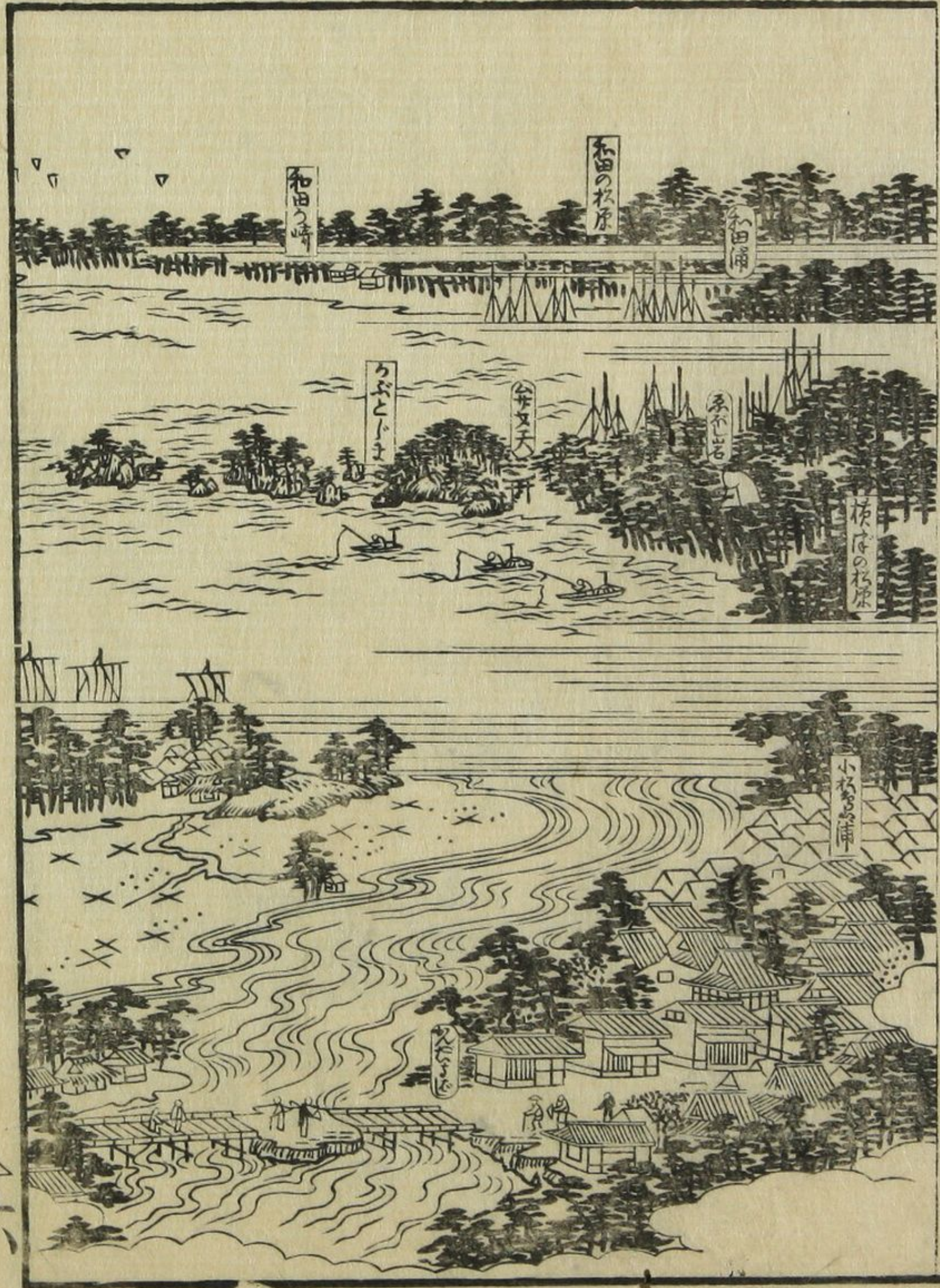
灌頂の滝  
浪花 龜確



千尺の岩窟のつち振まの京都御幸より  
 弘法大師授けしとぞありて救世の御尊と名く  
 乃れ八とて灌頂が滝と名いり  
 弘法大師は滝をて灌頂と名い  
 なりたるが日影映して五色となり  
 ぞ中不おそる現しとて定と稱す  
 秀眼寺山はらりは滝の中ふて  
 巖よりり水をけて秀のおく  
 秀眼寺山はらりは滝の中ふて  
 秀眼寺山はらりは滝の中ふて  
 秀眼寺山はらりは滝の中ふて

望 眺 峯 日

日峯東瞰對橫津  
 曉關奈林氣射濱  
 曉關奈林氣射濱  
 和嶼煙凝擬雨脚  
 和嶼煙凝擬雨脚  
 船驅擊汰帆凌亂  
 船驅擊汰帆凌亂  
 岸關怨潮巖隱嶙  
 岸關怨潮巖隱嶙  
 誰向景光何所比  
 誰向景光何所比  
 戲雁更有洞庭臣  
 戲雁更有洞庭臣  
 東武賢木春由





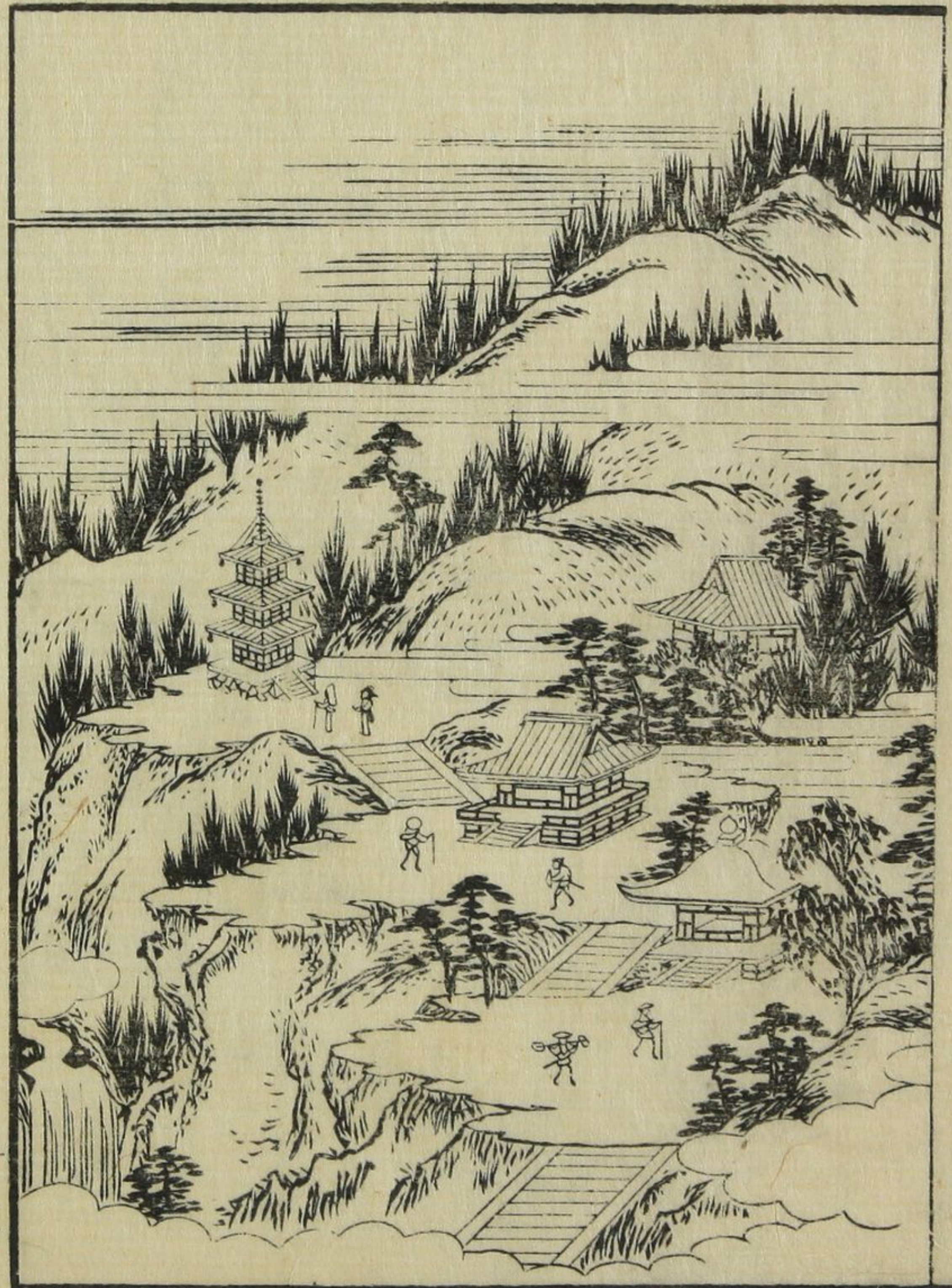
日峯眺を 傍浦致小ありけし日峯権祝の社ありけ所へ眺を小松  
 多の市街より 柳井横津の濱舟渡和田入浦遠小綱との小舟をた  
 浦士小舟を務き川秋入のき小浦小とほるりうぐすみりせる  
 藝のあし小休あるとちちの風景をせとらう 性時賃はの登後と  
 合戦ありし源家の兵船この鬼後小喜が 玉神経の風波は海上  
 飛ぶかひりる容身とひるのち小くんかひりれへとそ鏡石と名くる  
 何りせまの小舟直名あり ぶけ地の名と浦小とひかへ傍浦とあふ  
 公と舟とふあふのひびひ鬼後のある鳥帽子岩を脱して田  
 村恩山寺小のりせゆとあり今をを彼も其書の何りと我  
 鬼後のある石門ありそのと芭蕉翁のなむとく石ちうを名り  
 祝くしむらふやくほるるの音  
 鬼後のある其天の社あまが毎々天後とも名づくあ小傍庵あり



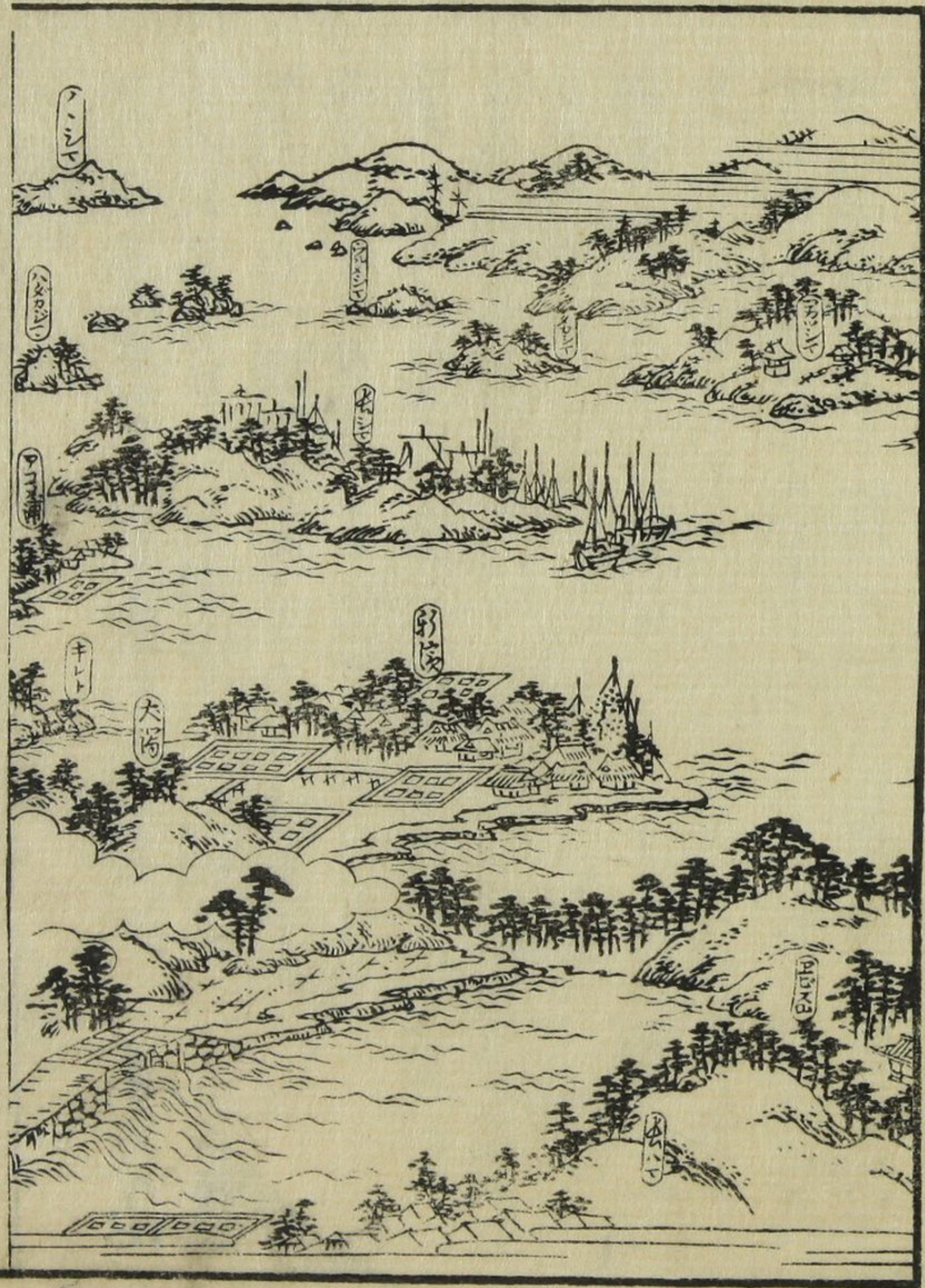
天石 橋ト野田作あり  
 右末人の従と天より  
 浴りてふとあははな名  
 或は宇佐川せん激のとき  
 握原く平ふた他日といへる  
 なるは本うき男とく擧  
 手と平ふたれとて懐つて  
 はふくまう死てふと成る

天石  
 信花 柳苗









望の眺の峯の津の



津峯眺望

那加久那言後浦ふありけ峯と津峯権現の社ありけところり眺  
 望ハ極子山を後とえト多ん後後の僕ふ入船泊舟と月くは羨み  
 年々天後衣後裸後のつ後鶴後のさの後のうつと又後の後のく  
 浦原つらり竜玉餅ゆりは後後浦ふつと又後舟なる梅が楳  
 いかよふまうれぬ言とつ後のさちこちなるびく塩竈の畑の畑と  
 るまきとつ後れすむとさるん大後切の狗形狗浦の漢もと  
 なふりの葉ふさよぶ後とたつ後とさるんつらり

狗浦 云人の説むり一は津門院のつらりまやとまき狗のうぐれ  
 せつとくをつるなるありそは院ま川田む村へ入舟も一をよより  
 ぼまの市所屋敷とく今もを存たり 津峯の南後舟村の社  
 境十圍余の楠あり

は楠の樹十圍余の社ありて楠とすこの舟の舟はかよ  
 たりと相人も後あり客の目とをさるん



石門 虹架大原  
 村あり西ま麻た  
 つく時く門と  
 奇一ト子園あり  
 て景色すこ

お合  
 ぶま  
 下や  
 まの  
 月  
 浪花  
 寺ト



日和佐浦の名産物あり  
玉ほ一山

此山は日神の御宇に  
ありて神代御宇に  
奥の院にして三つ  
霊場あり中右は  
大師更本を彫  
刻して赤人の  
赤よりなるも山  
んぬるを玉ほと  
云ふ

日和佐浦  
玉ほ一山  
神代御宇  
赤人



阿波の小島  
形を邪法泊  
浦あり

百箇の  
ちまよ乃々々  
あさくれと  
阿波の小島  
あつぬ  
人登



八坂八坂  
行基菩薩古跡

り日くむ  
乃やえつりま  
八坂候遠き  
西へ  
東に  
降坂



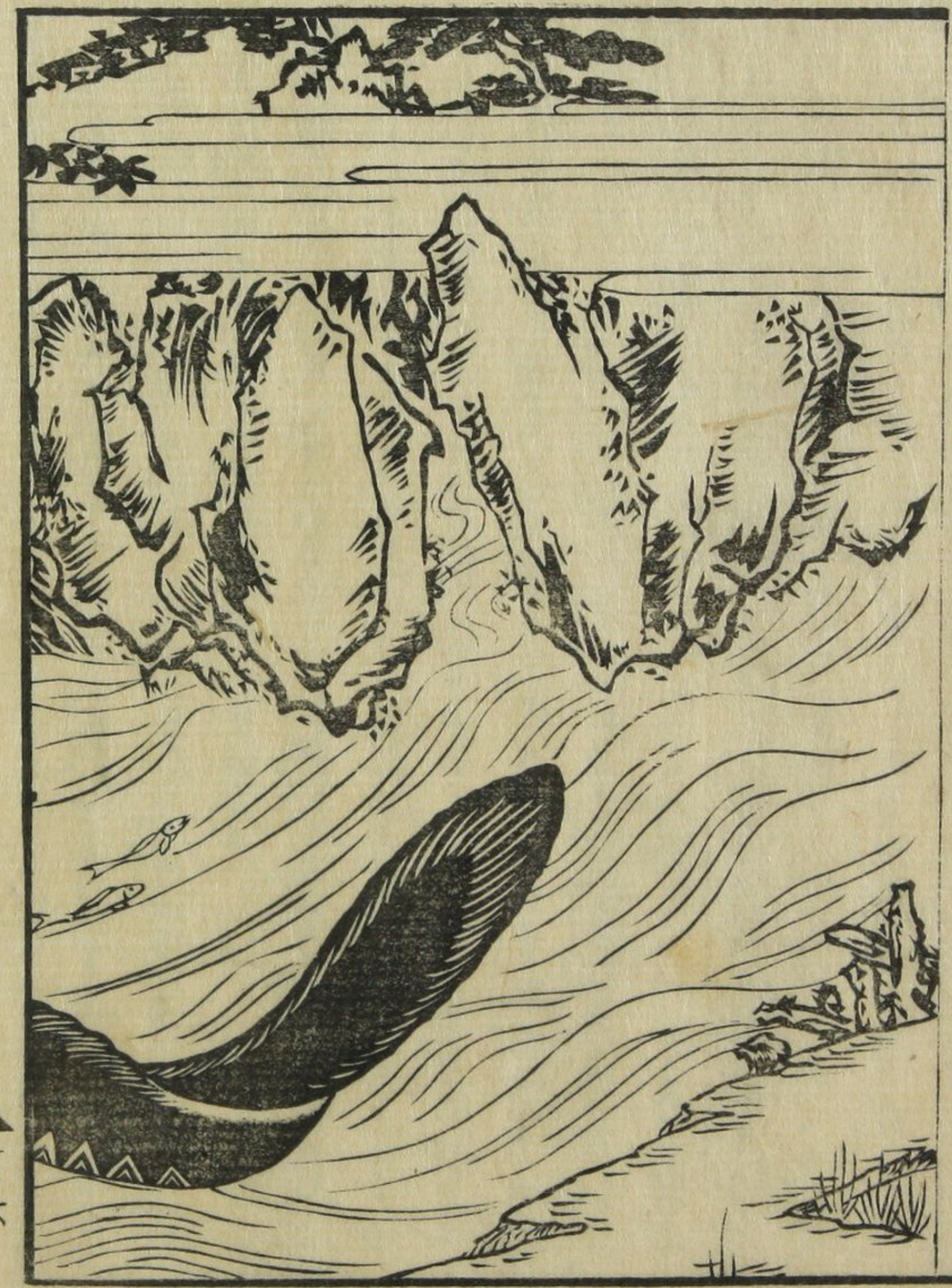




母川 鱧

海防郡まき津村の  
山溪あり

母川一方ハ一方ハ田池ありそハ乃ハ巖の  
下後ニて底を穿て大魚岩の下を  
穿てすむあハ一尾の祝鱧ハ巖の洞  
みて大石あるりハ昔時いでんて  
岩をせりりりきハてせりりり岩  
やく各々今もとるとあろ此鱧ハ大  
き五尺六寸長き三尺四寸ありあふ  
小魚を追ひあまを吞て食とせ



母を  
鳴る  
雲  
御  
新  
村  
あり

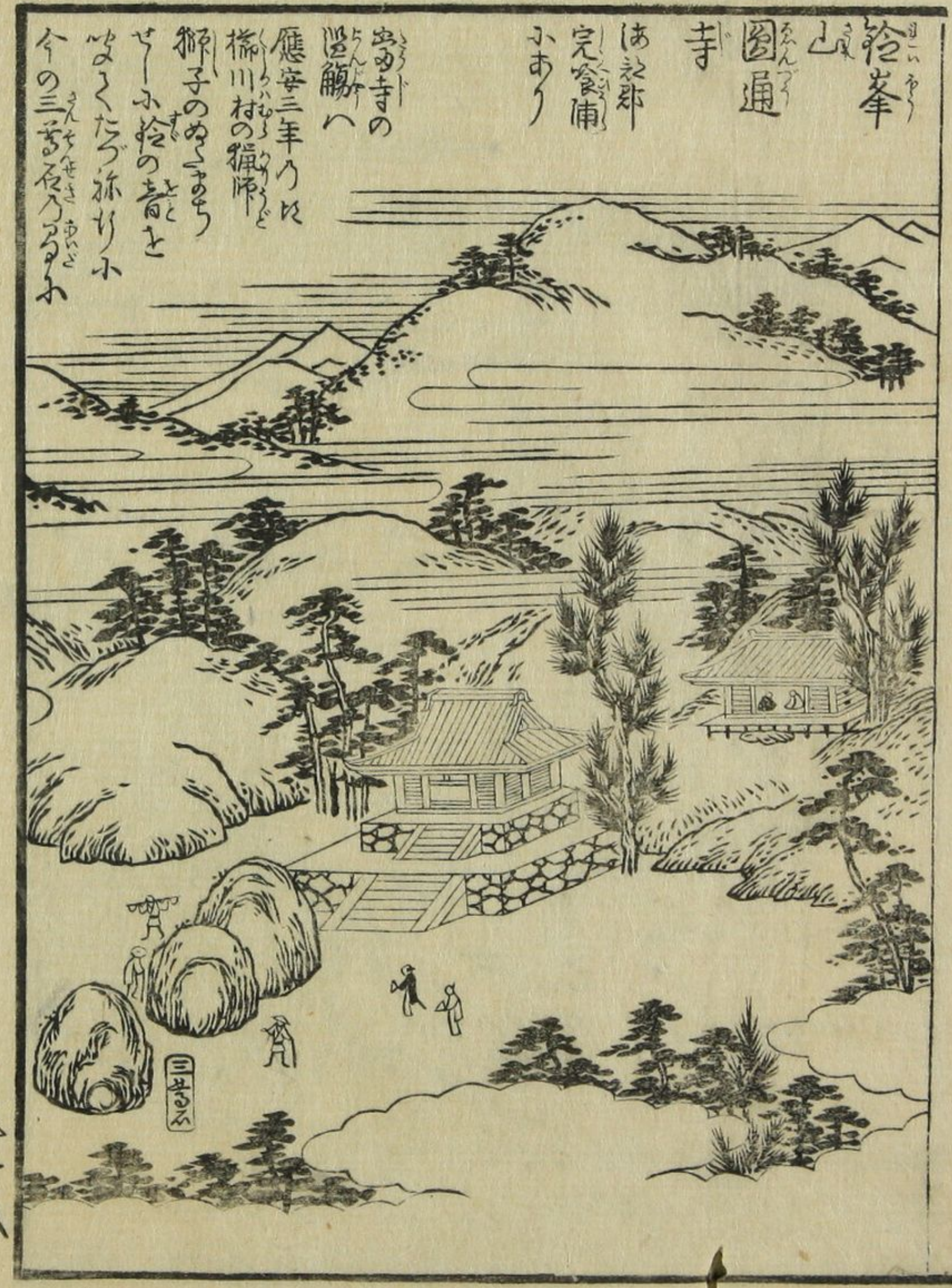


雲の大をすそそのは雲雲の  
とまりやまの車はまのひま  
ひ或は或はとまりまの丸く  
かまりたる雲谷うると丸まり  
川のとて四方ちりまの救方の雲  
友方より居まのりは不ふて  
合戦とまのりまのり



鈴峯  
山  
圖通  
寺  
はた郡  
完食浦  
小あり

此の寺の  
鑑  
應享三年より  
榊川村の御所  
獅子のぬきま  
すいふ鈴の音と  
まくとらぬり小  
今の三つをみるる小



△十八

此の寺の  
鑑  
應享三年より  
榊川村の御所  
獅子のぬきま  
すいふ鈴の音と  
まくとらぬり小  
今の三つをみるる小



後曰く 明昌七年丙辰四月日 鑄成金鐘  
重六十七斤 徳興寺懸掛 並日 勸母那同共  
心即 明萬歳上棟 桒戸長金仁鳳副棟  
桒延甫慶讚陳某書



懸泉不可量  
 在彼栗州陽  
 洊作雲聲至  
 乾坤似個裏  
 泉州橫塘則  
 權大傍於石  
 権大傍於石  
 出根ありちちてとまはせとく修とさう  
 出うちくくけひくく滝うも

裏滝 （土人） 滝は郡ありけ滝と分水を以て之を大岩解ありなり  
 裏滝 （土人） 滝は郡ありけ滝と分水を以て之を大岩解ありなり  
 滝の半とす （土人） 滝の半とす （土人） 滝の半とす （土人）  
 忽風繩とす （土人） 忽風繩とす （土人） 忽風繩とす （土人）  
 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人）  
 流 （土人） 流 （土人） 流 （土人） 流 （土人） 流 （土人）  
 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人）  
 滝の音 （土人） 滝の音 （土人） 滝の音 （土人） 滝の音 （土人）  
 奇 （土人） 奇 （土人） 奇 （土人） 奇 （土人） 奇 （土人）  
 同 （土人） 同 （土人） 同 （土人） 同 （土人） 同 （土人）  
 和流 （土人） 和流 （土人） 和流 （土人） 和流 （土人） 和流 （土人）  
 浪花 （土人） 浪花 （土人） 浪花 （土人） 浪花 （土人） 浪花 （土人）  
 泉声 （土人） 泉声 （土人） 泉声 （土人） 泉声 （土人） 泉声 （土人）

△北

兵形 （土人） 兵形 （土人） 兵形 （土人） 兵形 （土人） 兵形 （土人）  
 古 （土人） 古 （土人） 古 （土人） 古 （土人） 古 （土人）  
 心 （土人） 心 （土人） 心 （土人） 心 （土人） 心 （土人）  
 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人） 一 （土人）  
 都 （土人） 都 （土人） 都 （土人） 都 （土人） 都 （土人）  
 津 （土人） 津 （土人） 津 （土人） 津 （土人） 津 （土人）  
 等 （土人） 等 （土人） 等 （土人） 等 （土人） 等 （土人）

ふねまにらつて来りし人まき  
昔人の言はまゝに記すに  
ちのりやうしちんちん  
村の如き難波の浦に  
とちち海軍満く山城を  
もさるるるるるるるる  
とてちんちんちんちん  
昔の城老の田にちんちん

旅客の集めありし  
とてちんちんちんちん  
昔人の言はまゝに記すに  
ちのりやうしちんちん  
村の如き難波の浦に  
とちち海軍満く山城を  
もさるるるるるるるる  
とてちんちんちんちん  
昔の城老の田にちんちん

文化亭未名錄

治世居士  
一書  
重刊

名所記總目錄

浪華心齋橋通  
唐物町書林

河内屋大助梓行

平安秋里離島輯

五畿内名所圖會 全部三冊

各國神社佛堂の傳記山川幽谷國境  
村里名賢英哲の経路を詳ふ一名所を  
撰歌をいけ悉く今の風景とそのまゝ後  
寫し同くかな文車をくくして其監觸に  
實ふ全備大成の去以下名所圖會準之

都名所圖會 全部六冊

都拾遺名處名會 全部五冊

大和名所圖會 全部七冊

河内名所圖會 全部六冊

和泉名所圖會 全部四冊

撰津名所圖會 全部三冊

東海道名所圖會

全部六冊

本曾路名所圖會

全部七冊

伊勢路名所圖會

全部六冊

行も別ナリ  
上仕名所圖會  
重刊  
仕名所圖會  
重刊



北陸東奥勝地真景

廿四輩順拜圖會

全部十册

山城近江越前加賀越中越後信濃  
上野等八箇國 前篇五册  
武藏下信常陸陸奥出羽下野相模  
甲斐駿河遠江參河尾張美濃後篇  
附錄 伊勢大和河内攝津備後五册

山陰道名所圖會

全部七册 近刻

南海道名所圖會

全部世册

紀伊國名所圖會 全部五册

淡路 阿波 讃岐

同後集後篇 嗣出

伊豫 土佐 續刻

文中題詩諸名家寄合書此書も今大清書地一統の全圖を先たき直隸京唐土名勝圖會

直隸省部 全部六册

師大内皇 内城の城 郡阿久乃まきしきく  
全圖をたきて多圖なるは 朝多 儀武 諸署の目も至し  
其細を述べて天府より室化 府まで九の府毎に物圖を  
一統を唯一耶まると此を限り更ふ法内 互双結 密寄 藉

唐土訓業圖會

平任專安先生選 後素軒橋と圖画 全部十五册

山城名勝志

全部二十二册 係十二枚箱入

山州名勝志

全部二十二册

帝都雅景覽

文鳳山人書 全部 二册

系の系

全部 二册 二面

都細見之圖

懐中折本一册

都名所々々

懐中小本一册

花洛細見圖

折本十五册 懐中折本社松園

出来所系々々

全部 七册

京師概覽

全部拾五册

都築時記

全部 七册

此書ハ唐土系物ノ一統ノ全圖を先たき直隸京唐土名勝圖會  
聖賢佛人ノ傳射檢校卷ノ後藝器用科ノ  
會賦魚ノ後ノ一統ノ全圖を先たき直隸京唐土名勝圖會

此書ハ山城州中社佛國ノ概況を記す  
歌人英哲等ノ経緯を叙す百篇ノ列書なり  
記ノ書年々々々ノ助とるなり  
此書ハ山城州中社佛國ノ概況を記す  
その由縁を詳し其在の地ハ白園殿冠して七廢の  
城五園とて其虛実を辨じ巡歴の便に成るもの  
此書ハ都乃勝地をさやく一統ノ全圖を先たき直隸京唐土名勝圖會

此書ハ山城州中社佛國ノ概況を記す  
歌人英哲等ノ経緯を叙す百篇ノ列書なり  
記ノ書年々々々ノ助とるなり  
此書ハ山城州中社佛國ノ概況を記す  
その由縁を詳し其在の地ハ白園殿冠して七廢の  
城五園とて其虛実を辨じ巡歴の便に成るもの  
此書ハ都乃勝地をさやく一統ノ全圖を先たき直隸京唐土名勝圖會

日本風土記 全部八冊

都れなるの巻 経本二冊

増補 大日本國花萬葉記 全部廿二冊  
新板 箱入近刻

難波丸綱目 全部七冊

撰別名跡志 全部廿冊

泉州志 全部六冊

長崎記行 水戸先生の先生  
及び記名不日法全一  
をまとる

東國名勝志 全部五冊

東れ記行 全部五冊

西國船政記 西國船政法を念ふ  
は毎季法必道の元  
日毎季法必道の元  
日毎季法必道の元

任右名勝圖會 全部五冊

勝地山水奇観 浪華旭江縮圖  
真景 前後各四冊

撰津名所圖會 全部十冊

難波なるの巻 浪華旭江縮圖  
前後各四冊

文化十一年甲戌四月發兌

浪華書林 河内屋太助梓

江漢司馬先生著

畫圖西遊譚

全部五冊記す且和蘭清高の館中平戸鯨魚など珍

曲亭馬琴翁著

燕石襍志

全部六冊 著作坐随筆わり詩奇連俳の解諸國乃  
方言好古の漫録種々此奇譚上古の史傳より當  
時の巷談に至るまで雅俗と選まざる悉く鈔録し  
和漢の故吏と峯俗説の候と正し作者は考と載次

關西の紀行して東海道五畿中國九州本曾  
路等先生遊歴の地名山靈地江河海濱勝  
地佳境小遇てと悉く真景の自画と文一種々  
の奇話玲瓏等見聞小随く平らふと以て面白  
全部五冊記す且和蘭清高の館中平戸鯨魚など珍  
らき事を審ふ書よりなる面白き書なり

浪華大藏永常著  
農家益

全部三冊

檀樹の國益甚く事廣大にして國を利し  
民を富ましむ術の速成事是れはゆる物なし  
固食田と費さず路傍堤岡原野又ハ水々を悪  
き不毛の地或ハ火除の地やよく生育して  
五穀菜果の妨をなく其用る所ハ蠟燭と一  
鬚附とふ其功莫大なり今其種類の分別  
實蒔の仕様苗のふく之雌樹雄木を見分  
土地乃見立植様肥培の法接木の口傳並ニ生  
蠟の絞や晒蠟の製法等因画を以て審ふ記  
し農家貨植れ助となは實に有益乃書あり

同

後篇

全部二冊

此書を是まごう檀と植一國郡の大益と成し  
士法との前篇ふとまごう地の開きや接苗  
早おしとの仕や蠟の製法等ふいまごうまで  
微細ふまごうし此木の製法全備の書あり

